



⑥災害への備え

- ・第1次緊急輸送道路に位置づけられている現国道56号が通行止めになった場合の代替路線を形成する（南海トラフ地震発生時の津波浸水想定箇所を回避し、緊急輸送道路の代替路線を形成する）。

⑦地球環境の保全

- ・CO2排出量の削減が見込まれる。

⑧生活環境の改善・保全

- ・NO2、SPM排出量の削減が見込まれる。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

- ・愛媛県、宇和島市、西予市、愛南町、宿毛市、黒潮町、四国西南地域道路整備促進協議会、国道56号一本松宇和島間整備促進協議会等より本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。

愛媛県知事の意見：

津島道路は、四国8の字ネットワークの一部を形成するとともに、平成30年7月豪雨でも効果を発揮した大規模災害時等への対応や、南予地域の活性化などにおいて重要な役割を担う、まさに「命の道」・「地方創生の道」であることから、引き続きコスト縮減に努めるとともに、発生確率がより高まっている南海トラフ地震を踏まえ、可能な限り事業期間短縮を検討のうえ、整備促進をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成24年3月 四国横断自動車道（西予宇和～宇和島北IC）延長16.3km 暫定2車線開通
- ・平成27年3月 宇和島道路（津島高田～津島岩松IC）延長3.5km 開通
- ・平成28年3月 「四国広域道路啓開計画」が策定され、国道56号が進出ルートに指定
- ・平成30年1月 四国横断自動車道（宿毛～内海）第2回四国地方小委員会 実施

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成24年度に事業化、用地取得率約40%、事業進捗率約11%（平成30年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・内海IC(仮称)～津島南IC(仮称)間は橋梁工事等に着手しており、早期開通に向け工事推進中。
- ・津島南IC(仮称)～津島岩松IC間は早期の工事着手を目指し、調査・設計を推進中。

施設の構造や工法の変更等

- ・今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造等の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。